

令和 6 年度宮崎県健康づくり推進協議会議事録

日時 令和 7 年 3 月 2 4 日（月）

1 4 時から 1 5 時 3 0 分まで

場所 県庁 5 号館 5 2 1 号室

1 あいさつ

健康増進課長

2 会長選出

3 議事

1) 健康みやざき行動計画 21（第 3 次）に基づく県の取組について

（1）健康づくり推進体制及び宮崎県の主な取組【資料 1、資料 2、参考資料】

（2）糖尿病予防戦略事業の取組について【資料 3】

（委員）

今年度、インフルエンサーを起用して健康づくりの普及啓発を行っているが、どれくらい影響があったか。

（事務局）

インフルエンサーの SNS 動画を投稿している健康増進課Instagramについて、フォロワー数がインフルエンサー起用前は 1700 名程度だったのが、現在は 2443 名と増加している。また、平均リーチ数としてどのくらい投稿を見たかについては、インフルエンサー起用前は 1 ヶ月で 1,000 未満だったのが、起用後は 1 ヶ月で 5 万、6 万という月もあり、多くの方に見ていただけるようになったと感じている。

2) 部会の取組について

（1）二次医療圏地域・職域連携推進協議会の取組状況【資料 4】

（委員）

それぞれの圏域でとても大事な取組をされて、今後の課題まで整理されているが、これらの各圏域の情報を共有できる場所など何か発表する場があるか。

（事務局）

二次医療圏の取組について発表する場は設けていないが、各圏域の協議会の事務局を保健所が担っているため、県で実施している保健事業の研究発表を行う場で取組について発

表する場合もある。

(委員)

宮崎東諸圏域の事業評価でプロセス評価が 30 点満点中 13 点とやや劣っているため、改善ができる場所などがあれば、良い方向で P D C A をまわしていただきたい。

(委員)

日南串間圏域の成果のところ、ベジ活という言葉が普及しているなど成果が上がっていると感じた。先ほどの資料 3、コンビニエンスストアでの売上高伸長率で、一番売り上げが伸びたカップデリについて、おそらくスムージーのことだろうと思うが、県民の方々が実際に流行りものだから購入しているということなのか、こういう POP を意識されて買われた結果であるからなのか、どのように分析されているか。

(事務局)

売り上げが伸びている背景について POP による効果が全てではないかもしれないが、POP による効果もあったと考えている。カップデリは、スムージーではなく、和え物などミニサイズの副菜の惣菜等が該当する。

2) 部会の取組について

(2) 宮崎県糖尿病・慢性腎臓病 (CKD) 対策検討会の取組状況【資料 5】

(委員)

家族が腎臓病で、管理栄養士などの専門職のいる医療機関に約 2 週間入院したことがあり、入院前は歩けなかったが退院時には自分で歩けるようになった。専門職のいる病院のすごさを感じた。腎臓病の減塩食は難しくなかなか作れない。もっと、栄養指導、食事の作り方の指導などがあると良いと感じた。

(委員)

栄養士会では、宮崎市のフレフレ健康教室で、フレイル予防のために食事の指導を行っている。現在の食事を聞き取って、こういうところをこういうふうに直したほうが良いなど助言する。そういうのをもう少し拡大していけるといいのかなと感じた。

(事務局)

病院には管理栄養士がいることが多く栄養指導を受けることができるが、クリニックなど管理栄養士がいない医療機関では栄養指導ができない、受けることができない現状があ

る。このような課題については、各医療圏の協議会でも協議されていると思われる。また、市町村において、重症化予防対策として保健指導の中で食事の指導も行われている。

(会長)

御質問の内容はとても大事なところと感じる。病気に合わせた具体的な料理を家庭で提供していくというのは、実際はなかなか難しい。1回聞いてもなかなかできない。重症化予防、多職種連携の関連でおそらく今、クリニックにおいても専門の栄養士がなくても医師会との共同で栄養指導をするという動きがある。やはりそういう仕組みを活用することが大切と感じる。

(委員)

令和6年ということでまだ計画の評価というのは難しいところと思うが、策定時値がコロナ禍の生活環境に影響されているため、その辺の考え方をどうすれば良いのか、県の方でどうされるのかなと思っている。あと、二次医療圏や保健所など色々なところとの連携が大事かと思う。こうやってこの協議会をやっているが、やはりいかに住民の皆さん、に浸透していくかというのが課題ではないかと思う。それから今日報告いただいたコンビニエンスストアの取組と、こっそり適塩プロジェクトは非常にユニークで面白い。1ヶ月しか実施されてないので、売り上げでの評価というのがこれでいいのかどうかという疑問は残るが、このプロジェクト、面白いなと思ったので、ぜひ何らかの形で広げていただけると良い。

(事務局)

計画の大きな評価としてまず中間評価があり、御意見のとおり策定時の状況を踏まえ評価する必要があると考えている。また、二次医療圏、保健所との連携については、市町村も含め当協議会の状況等を共有し、課題を共有していければと考える。コンビニエンスストアでの取組については、評価方法については難しい部分もあるが事業者と最適な方法を検討していきたい。

(委員代理)

資料2にも記載している SALKO というウォーキングアプリを御存知でしょうか。平成27年からスタートし、現在9年目で5万ほどのダウンロード数で、非常に好評をいただいている。年に3回程度、歩数に応じて景品をプレゼントするようなイベント等もやっている。県のスポーツ実施率は年々上昇傾向にあり、現段階でいうと大体54%ぐらいで、県民の方の運動実施率が過去最高に上がってきている状況。今後それ以上を目指すということで、目標60%という設定で、色々取り組んでいるところである。課題としては、運動実施率に関して、年代別で見ると二極化している状況があり、実は60代70代80代の運動率は60~70%ぐらい。逆に、20代、30代40代の働き世代と言われる年代が、20%台であるとか30%

台、40%ぐらいで止まっているというところで、いかにここを上げていくかが、大きな課題でもあると考えている。本年度実施したところというと、日本スポーツ協会と連携をし、働く世代イコール子育て世代と重なる部分もあるため、子供をターゲットにしたイベントで、自然と親として保護者として、こういったイベントに参加してくれるのではないかとイベントを開催したところ、予想以上に反響も大きかった。ただ単にスポーツ実施率を上げるという目的だけではなく、そこに入りやすいようなきっかけづくりが今求められていると思うので、その年代に合った仕掛けを県の方でも進めていきたい。

(事務局)

健康増進課でも、資料 2 の 2 ページに記載しているような、楽しみながら運動できるように、お出かけ先での運動スポット情報の提供や、お祭り等のイベントでの運動ブース出展などで意識をしてもらうというような取組を行っている。

(委員)

歯科健診の受診率も若い世代の受診率が低い。忙しいこともあると思うが、健康に関する意識がまだまだ低いと感じながら聞いていた。インフルエンサーさんの活用も、20代30代をターゲットにできるような方でしょうから、何かうまくできれば良いのかなと感じた。

(事務局)

次年度も健康づくり普及啓発の PR キャラクターをたてて普及啓発を行っていく予定で、キャラクターは誰になるかは分からないが、工夫して進めていきたい。